

令和4年度 吉川市立吉川中学校 学校公開用

この学校評価は、学校の現状やこれまでの努力とその結果を公表し、家庭・地域にお知らせするとともに、今後の取り組みに向けて家庭・地域の理解や連携協力をお願いするものです。

No.	質 問 項 目	自己評価	自己評価についての 評価の説明及び学校の考え	学校関係 者評価	評価に対する学校の説明・考察
1	学校教育目標の実現のため、様々な取り組みに努めている。	A	年度当初に校長から示された学校教育目標や学校経営方針が、職員に浸透している。学校教育目標は生徒が生活する指針であるため、すべての教室に掲示し、その実現に向けて職員も生徒も意識し、日々の教育活動を展開している。	A	学校教育目標について、年度当初の学校だよりやHPにて地域に配信している。コロナ禍の中、授業や学校行事で工夫をこらし、学校教育目標の実現に向けた日々の取り組みを行っている。
2	学校は、児童生徒の学習環境の整備に努めている。	A	限られた学習空間で生徒が心地よく学習できるように、掲示物や備品使用の工夫を行い、機能的で安全な学習環境の整備に努めている。学校で統一して、毎日生徒が帰宅した後に、環境整備のチェックを行っている。生徒数の増加に伴い、大型テレビ等の	A	従来の学習に加え、ICT機器の効果的な活用を進めている。そのための端末や視聴覚教材を拡充している。新設3年目の学校として、今後もきれいな落ち着いた学習環境を維持するように努めていく。
3	校長を中心として、全職員が協力して児童生徒のために努力している。	A	学年・学級経営の視点として、「あれから一週間作戦」「2分間道徳」「3人目の声かけ」「退勤4チェック」が示された。具体的、継続することで効果が現れる視点として、粘り強く取り組んでいる。学年セクト等をつくることなく、互いの活動を「見える	A	「管理職のリーダーシップにより教職員をまとめ、生徒のよりよい成長に向けたとりくみを推し進めていると見受けられる」という評価をいただいている。教育公務員として使命感を一人一人の職員が大切にし、職員が一枚岩で教育活動を進めるよう努力
4	学校は、保護者や地域に学校行事や授業を公開している。	A	感染対策をとりつつ、保護者に対しては、体育祭や文化祭等の行事を公開できた。ただし、教室で密になることから、授業公開はできなかった。アフターコロナにむけて、学校行事や授業を、保護者・地域に公開していき、開かれた学校を目指したい。	A	保護者に向けて体育祭・文化祭を公開、次年度入学の児童とその保護者に向けて部活動や施設の公開をした。感染予防から授業の公開ができていないが、今後、感染の終息とともに実施していきたい。
5	学校は、学校の様子や成果を「学校だより・学年だより」等を活用し、情報提供している。	A	学校だよりや学年だよりを発行し、日頃の教育活動を家庭に紹介している。ホームページを随時更新し、保護者連絡アプリにより各家庭に情報提供をしている。また、PTAとも連携し、PTA通信やPTAホームページにて学校の様子を紹介している。	A	「学校だより」「学年だより」を定期的に発行している。学校だよりは連絡アプリにて各家庭に配信し、学年だよりは学年生徒の家庭へ紙ベースで配布している。生徒の活動の様子を写真等を掲載して、紹介している。
6	学校は、保護者や地域からの相談や要望に応えている。	A	保護者の相談や要望に丁寧に対応している。現状の中では応じることがむずかしい相談や要望についても、その内容を職員間で共有し、管理職を含めて、職員集団で対応している。保護者や地域の願いを真摯に受け止めている。	A	内容は公表しなくてもよいが、こんな相談・要望があり、その対応について公表することを求められた。教職員の共通理解のもと、地域との連携を深めていきたい。
7	児童生徒は、落ち着いて学習に取り組む、学習内容を理解しようとしている。	A	学習に対する姿勢は良好で前向きな態度の生徒が多いが、興味や関心・理解度が乏しいため学習に意欲的でない生徒がいるのも現状である。基礎的な学力を身に付けさせる指導・さらに高度な学力をつけさせる指導など、個に応じた指導が必要である。	A	授業規律を保つために、年度当初に、授業を受けるにあたっての心構えを全校的に指導している。生徒は落ち着いた雰囲気の中で授業を受けているが、主体的に学習に向かう態度の育成をしていきたい。
8	学校は、教材や指導方法を工夫し、児童生徒にわかりやすい授業を心がけている。	A	生徒の学習意欲に応えるため、全職員で各教科の特性に合わせて教材や指導方法を工夫している。ICT機器などの積極的な活用、新学習指導要領についての研修を行い、わかりやすく楽しい授業の展開に努めている。	A	ICT機器などの新しいツールを含めて、整備された教材や教具を全職員が積極的に利用している。ネットトラブルを防いでいくような指導を求められている。
9	学校は、児童生徒の行動や能力を適切に評価している。	A	新学習指導要領の3つの観点について、各教科で研修を行い、適切な評価判定について検討した。生徒一人一人の能力や「学びに向かう姿勢」など適切に評価するように今後の研修を深めたい。	A	できそうな子をできる子に、できる子をもっとできる子に、個に応じた効果的な指導を求められている。要望に応える指導について検討していく。
10	児童生徒は、進んであいさつをしたり正しい言葉づかいをしたりすることができる。	B	感染防止のため、声を発することを制限する指導をしてきたことの影響が、進んで挨拶をしない生徒や挨拶を返さない生徒が見受けられる現状がある。地域からも指摘されている事項で、さわやかな挨拶や正しい言葉遣いの指導・推奨が急務である。	A	地域の方からも、個々の場面で進んだあいさつがあまりでない生徒が多いことを指摘されている。コロナの終息に伴い、全体と個々のあいさつ指導を行っていく。
11	児童生徒は、学習のルールや生活の決まりを守ることができる。	B	概ね、学習のルールや学校の決まりを守ることができるが、集団活動にふさわしくない行動をとる生徒がふえたのも現状である。学校生活の規律を守るために、全職員による指導の徹底が望まれる。	A	深夜に生徒を見かけることがあるが、全体的には問題がないという地域の評価である。教師間で共通理解を図りながら生徒の共通した指導にあたりたい。「学校生活ガイド」に示した内容は毎年度検討している。
12	児童生徒は、時間を守ることができる。	B	ノーチャイムを実施し、「始業2分前の着席」などを励行する取り組みを継続している。朝の登校時刻の遅れ、授業準備の不徹底などが課題である。職員が先にたち、見届けるよう指導の工夫・改善をしたい。	A	「ノーチャイム」で学校生活を送っている。生徒は時計をみて、始業の2分前に着席するようにしている。生活の基本は時間を守ることであることを今後も生徒に投げかけ、生徒が自主的に行動できるように指導する。
13	学校は、規範意識を高めるための指導に取り組んでいる。	A	様々な場面で、集団の中の個の在り方について指導している。規範意識の低い生徒が増えてきた現状がある。今後も、規範意識の高い生徒集団を作ること、個々の生徒の規範意識を向上させることが必要である。	A	生徒における細かな問題行動が出てきた。生徒の登下校の様子については、何処か近隣からの苦情があった。生徒に規範意識の確立は、学校への信頼へと直結するものである。気を引き締めて指導していく。
14	児童生徒は、体育の授業や部活動又は外遊びに意欲的に取り組んでいる。	A	コロナ禍の行動制限が徐々に緩和されてきた。生徒は運動に対する欲求があり、昼休みの外遊びなども盛んにおこなわれるようになった。体育の授業や部活動も以前の状態に戻りつつあるが、ケガをする生徒が増えているので配慮したい。	A	体力の低下が懸念されている。運動の制限が緩和されてきた。昼休みは、校庭で遊ぶ生徒が多数いる。感染予防を行いつつ、生徒の体力向上を目指す指導の工夫が求められている。
15	児童生徒が、健康な生活を送れるよう食育に取り組んでいる。	A	食育について、生徒に指導しバランスの取れた規則正しい食事と健康な体作りを指導していく。また、感染の状況を配慮しつつ、楽しい食事をとらせることも検討する。	A	感染防止のため、給食の黙食を徹底している。今年度は、学校栄養士による食育指導も実施できた。家庭のおいでも、生徒自ら健全な食生活を行うことができるように、計画的な食育指導を行いたい。
16	学校は、児童生徒の健康・安全や体力向上に向けた取り組みを行っている。	A	毎日の健康観察・マスクの着用・手洗いの励行などに努め、校内の感染予防に尽力している。体力の向上については、体力向上推進委員会と連携し、体育授業・業間・部活動等の時間で、感染防止に配慮した活動を行う。	A	感染拡大防止により、運動についての制限が増えた。コロナ前に比べて生徒の運動量が減っている。地域から、生徒の体力低下を心配する声がある。感染防止に努めつつ、体力を向上させるための指導の工夫が必要である。
17	学校は、児童生徒の立場に立ち、一人一人の思いや願いを大切にしている。	A	生徒の指導については、毅然とした態度で臨むことが必要であるが、生徒の目線に降りた生徒理解を重視している。どの生徒も「よりよく生きたい」と思っていることを前提として、一人一人に誠意をもって接するように心がけている。	A	「一人一人の生徒を大切に」という基本的な理念を重視して、日々の教育活動を行っている。生徒間のトラブルなどの対応については、管理職と相談しながら学年・学校で丁寧に取り組んでいる。
18	学校は、いじめや不登校をなくすため、児童生徒への指導の充実を図っている。	A	差別や偏見をなくし、互いの存在を尊重することの大切さを伝える活動を、日々の教育活動で取り組んでいる。人間関係のトラブルなどで、登校を渋る生徒がいる現状がある。全職員で情報を共有し、その改善を模索している。	A	差別や偏見をなくし、個の多様性を認める指導を行っている。月に一度、「心とからだの安全点検」を行い、生徒の悩みに気づくようになっている。不登校生徒が多いのが現状で、その是正に向け小中で連携して取り組みたい。